

2021年度 第3回 防災委員会 議事録

開催日時：2021年11月20日（土） 14:00～17:05

開催場所：商工会議所 307号室及びWEB（Zoom）併用会議

参加者：味澤泰夫・有村研一・池田圭一・石本俊亮・梅田和久・岡田裕彰・箴島秀利・田辺努・寺田利博・中田敦也・久富浩明・南嶋佳典・宮本修・持田拓児・八百屋さやか・荒川直樹・緒方正隆・中村勲・津山輝男（熊本県支部）・松川浩一（宮崎県支部）・樗木秀人（鹿児島県支部）・・・21名

欠席者：香月裕宣・北里憲章・西井康浩・松本義信・江口友弘 ……5名

1. 防災委員による発表会と質疑応答

講師：宮本 修 様 「PMS 方式灌漑事業ガイドラインの紹介」

【発表内容】

ペシャワール会 PMS 支援技術チームの一員として活動中

PMS 方式灌漑事業：故中村哲医師のアフガニスタンの活動を後世に伝えるべく、著書「アフガン・緑の大地計画」をもとに JICA とペシャワール会がガイドラインとして取りまとめたもの。

「緑の大地、15カ年計画(2002年発表)」とは、ジャララバード北部穀倉地帯の復興を目的として計画されたもので、工事は2003年に始まり、16,500haの耕地の復興により約60万人の農民の生活を保障するプロジェクト

《動画の視聴》

第1章：PMS 方式灌漑事業ガイドラインとは？

第2章：PMS 方式灌漑事業を農民とともにどうやって立ち上げるか？

第3章：水源となる河川の何をどのように理解するか？

第4章：水利施設の計画と設計はどのように行うのか？

【質疑応答】

Q1（石本氏）：PMS 技術支援チームは、どのような形で始まり、何名くらいで活動されているか。

A1（宮本氏）：建コン協に話がきて、現在5名でチームを組んでいる。

2. 前回の議事録確認

- ・前回の議事録で修正点がないか確認した。
- ・修正がないため、事務局に依頼し、九州本部のホームページにアップすることを依頼する。

3. 各 WG について

1) WG1：「災害リサーチチーム」の報告（南嶋氏）

- ・洪水関係の災害履歴に関する情報整理と合わせて地震情報に関する整理も行っていく。
- ・引き続き2ヶ月に1回程度で各員から情報収集を行う。

【質疑応答】

- ・建設部会でも「災害履歴情報」を取り纏めていると聞いております。WG1で取り纏めている「災害

履歴情報」と今後、共有し連携して進めることを期待しますが、いかがでしょうか。(持田委員長)

建設部会で現在取り組んでいるのは、各県持ち回りで身近な土木遺産や災害履歴の掘り起こしを行い『土木遺産シリーズ』として『技術士たより』のコラムに掲載する取組です。身近な土木遺産の調査の方が先行しており、災害履歴の掘り起こしについては進んでいません。(岡田氏)

今後、建設部会と連携して、災害履歴情報をまとめることができるよう依頼する。(南嶋氏)

2) WG 2 : 「災害リスク管理チーム」の報告(石本氏)

・感田小学校区の現地調査報告

現地では微妙な標高の違いは分かりにくく、避難経路の検討には注意が必要。

旧街道は周辺の土地より高い位置に道が造られている可能性あり。WG1で確認してみてもは？

逃げ遅れた際の次善の避難場所として、周辺より少し高い場所を確認しておく必要がある。

遠賀川と支川の尺岳川の合流点には水門がなく、バック堤として処理されているため、遠賀川本川の水位が高い場合に尺岳川流域に降雨がもたらされると、尺岳川から溢水する可能性がある。

【質疑応答】

・現地調査を実施した範囲は、感田小学区の校区なのでしょうか。(味澤氏)

今回の調査範囲は、感田小学校校区範囲内です。(持田委員長)

3) WG 3 : 「災害サポートチーム」の報告(有村氏)

・香月副委員長の報告メモ、プレゼン資料、をもとに説明。

・防災授業は大成功。授業風景の写真をご紹介。

・直方市上下水道課の北里氏も参加していただいております、直方市として感田地区のこの取り組みを市全体に広げたいとのこと。

・ハザードマップを持参して現地確認することはとても重要である

・防災授業では子供に「あなたにとって大事な人は誰ですか？」と問いかけることで意識づけができると感じた。

(有村さんの個人的な気づきをお書きください。)

・防災授業の見学で小学校に行き、周辺の現場をみるのが大事と思いました。

・岡山県真備町、佐賀県六角川などと同じ状況にならないかと感じた。

・例えば、堤防が決壊した場合のシナリオをつくり(避難を)どうするかを考えては。

・直方市は、低平地の地域であり、史跡、石炭博物館、成金饅頭、もち吉、(オランダのような)チューリップなど魅力的な地域資源がある。SDGs を考えた街づくりについて直方市と九州大学が連携をしている。SDGs 目標では(4番)質の高い教育、(11番)住み続けられる街づくり、(13番)気候変動への具体的対策に該当する。

・感田小学校での取り組みを参考に、各県支部でも火山や地震など各地域での防災活動の取組みができると感じた。

【質疑応答】

・身近な水害を子供たちに伝えることが重要だと感じる。(石本氏)

・自分の住んでいる所がどういう所か、伝えることが必要であると思う。(石本氏)

・ハザードマップを実際に作っているが、住民に伝えることはなかなか難しい。現地の資料を見せることが一番インパクトのある方法だ。(緒方氏)

・ハザードマップ(HM)から浸水状況をイメージすることは(HM作成を仕事にしている私から見ても)非常に難しい。しかし、WG2資料の見せ方はインパクトがあった。「浸水深を表示した現地写真」は、現地を知らない人でもイメージしやすく、非常に効果的な見せ方と感じた。(緒方氏)

・児童の興味を引く方法として、“じゃんけん”等の参加型企画は効果的だと感じた。「浸水深を表示した現地写真の場所当てクイズ」なども、子供たちがHMに興味を持つ入口にできるかもしれない。
(緒方氏)

・洪水深を電柱にマーキングすることが効果的と感じた。(寺田氏)

・危険な水位を身近な所にマーキングして、子供たちに知らせることが効果的だと感じた。(寺田氏)

・鹿児島県は、桜島で大正噴火のような大規模噴火が起きる可能性が高まっている。もし、大規模噴火が発生した場合、風向きによっては鹿児島市街地側に大量の軽石や火山灰が降ることが予想されることから、鹿児島市HPで噴火シミュレーションなどに基づく映像紹介など、災害の見える化が取り組まれている。(鹿児島県支部 樗木氏)

(参考)知る・備える・行動する"桜島の大規模噴火"~その時、あなたはどうか動く?~

・鹿児島県では、津波注意のため電柱に海拔を示した看板が取り付けられている。児童に洪水注意の看板表示を考えてもらうのも効果があるのではないかな?

(鹿児島県支部 樗木氏)

・鉄道の線路脇に高さが明示してある(勾配標)。これを利用して、地形がどちらに傾斜しているか知ることができ、危険な場所を察知することができる。(味澤氏)

・飯塚市防災危機管理監の吉田氏は、小学4年生に数値を示して防災教育を実施していた。4年生には難しいと感じた。その点、今回香月氏が実施した防災教育では、防災委員会委員からの意見・情報等をうまくまとめ、問題形式で視覚に訴える事で、子供たちの興味を引くとともに、理解しやすい内容で良かったと感じた。(味澤氏)

・小学生の1年間の成長は著しい、今後先生がどの様に授業を進めて行くのか、5年生、6年生の内容をどうするのか等々、十分議論し、考えていかなければならないと思う。(味澤氏)

・災害の多い地域では、災害からの再生の歴史があり、災害が繰り返し発生することが当たり前となっている。災害も一つの文化として受け入れて生きている実情があり、そのことを子供たちに伝えることも必要と感じる。(梅田氏)

・以前は、災害からの再生の歴史が確かに多くあったが、河川整備が進んだことにより、水害の経験が薄れ、生活の中でどうすれば命が助かるのか理解させることは必要と感じる。(石本氏)

・内水被害は昔からあった。家を建築する場合、危険な地域に建築することが無いよう、指導できる体制の整備も必要だと感じる。(荒川氏)

4. その他報告・連絡事項

「先進建設・防災・減災・技術フェア in 熊本 2021」の報告(熊本県支部 津山氏)

出店パネルを県支部合同で作成したのは初めての試み。

時間のある方は是非ブースを尋ねてください。

(11/24(水) 10:00~17:00、10/25(木) 10:00~16:00)

今年のアンケート調査に関する討議

・WG2で2021年度アンケート調査を進める。

・昨年は「技術士が考える気象・海象・地象災害に関する課題と方策並びにハザードマップ活用に向けた補足提案」について記述式でアンケート調査を実施したが、今年度は災害の記録など異なるアンケート調査内容とする。(11月末を目途に質問事項の内容に対する意見を各委員に募る)

2022年度の活動計画について

- ・基本的な活動に関しては、2021 年度の活動を継続することとする。
- ・今年度オブザーバーの緒方氏が 2022 年度は新防災委員として活動することの了承を得た。次回の合同役員会で承認を得ることとする。
- ・新たな活動、新規メンバー等に関する意見があれば委員長にあげること。
次回の運営委員会
- ・令和 4 年 4 月 23 日（土）14 時～17 時 開催を予定（商工会議所と Web 併用の開催）

議事録作成者：中田（2021 年 11 月 24 日）